

令和2年度

通期業績予想

〔上半期決算反映版〕

令和2年12月

箕面都市開発株式会社

上半期決算に基づく通期業績予想の概要

1 令和2年度予算と通期業績予想を比較すると

- 通期業績予想では、予算編成時の見込みに比べ、営業利益、経常利益、当期純利益とも予算を上回る見込みであり、経営は順調です。

2 調停条項と比較すると

- 期末資金残高について、**調停条項の想定推移を上回る見込み**です。
- 平成24年度末に債務超過が解消された**純資産額**についても、**調停条項の想定推移を引き続き上回る見込み**です。
- 本業の利益を示す営業利益など、いずれの利益(営業利益・経常利益・当期純利益)においても、**調停条項を上回る見込み**です。

3 今後の展望

- 今期も売上高、営業利益、経常利益とも予算を上回る見込みとなっており、調停条項に対しても各利益で上回り、引き続き、順調な経営予想となっています。
- 今後もキャッシュフロー安定化のための経営努力を行います。

令和 2 年度

通期業績予想

1. 令和2年度通期業績予想

(単位:千円・%)

	令和2年度			令和2年度通期業績予想との比較			
	調停条項	予算額	通期業績予想	調停条項		予算額	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	106,880	120,000	122,800	15,920	14.9	2,800	2.3
営業利益	14,380	15,000	20,000	5,620	39.1	5,000	33.3
経常利益	12,719	12,108	17,122	4,403	34.6	5,014	41.4
当期純利益 (※)	6,246	12,800	17,814	11,568	185.2	5,014	39.2
期末資金残高	84,560	110,682	115,438	30,878	36.5	4,756	4.3
純資産額	46,781	92,780	97,794	51,013	109.0	5,014	5.4

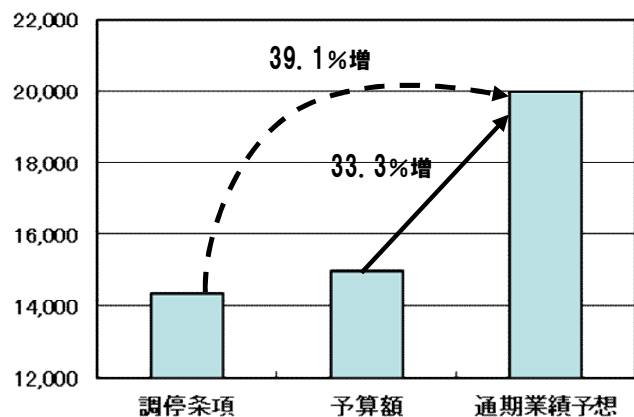
(※)法人税等調整額を除いています。

法人税等調整額とは・・・税務上の損金、益金で算定される課税所得と企業会計上の費用、収益で算定される当期純利益との差額を調整するものです。

通期業績予想では、すべての項目において、予算額を上回る予定です。

2. 令和2年度営業利益（本業利益）の比較

(千円)



調停条項、予算額ともに上回る予定となっています。

要因

箕面文化・交流センターの利用料金収入が新型コロナウイルスにより減少したものの、営利団体の長期利用があったことや、感染拡大防止のための一時的な休館による販売管理費の減少のため。

3. 貸借対照表

(単位:千円)

	令和元年度 (令和元年9月30日現在)		令和2年度 (令和2年9月30日現在)		増減額
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	
資産合計	590,974	100.0	578,435	100.0	▲12,539
流動資産	122,131	20.7	123,053	21.3	922
固定資産	468,843	79.3	455,382	78.7	▲13,461
有形固定資産	435,949	93.0	434,529	95.4	▲1,420
無形固定資産	296	0.1	296	0.1	0
投資その他の資産	32,598	6.9	20,557	4.5	▲12,041
負債合計	488,601	82.7	478,334	82.7	▲10,267
流動負債	24,587	5.0	24,968	5.2	381
固定負債	464,014	95.0	453,366	94.8	▲10,648
純資産	102,373	17.3	100,101	17.3	▲2,272

純資産(繰延税金資産除く)	78,630	——	88,399	——	9,769
---------------	--------	----	--------	----	-------

※繰延税金資産とは・・・将来の会計期間に帰属すべき税金費用(損金)を当期に前払いしたと考え、これを繰延処理することにより生じる資産のこと

4. 決算実績と予算・通期業績予想の対比

(単位: 千円・%)

	令和元年度 (予算)		令和元年度 (決算)		令和2年度 (予算)		令和2年度 (通期業績予想)		増減率	
	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	R1決算・ R2業績予 想対比	R2予算・ R2業績予 想対比
売上高	125,000	—	124,966	—	120,000	—	122,800	—	▲1.7	2.3
受託料収入	76,490	—	77,111	—	77,633	—	77,700	—	0.8	0.1
所有床賃貸収入	7,034	—	7,753	—	8,651	—	8,651	—	11.6	0
土地賃貸収入	23,580	—	23,580	—	23,580	—	23,580	—	0	0
受取手数料収入	2,796	—	2,728	—	2,389	—	2,483	—	▲9.0	3.9
文化・交流センター売上	15,100	—	13,794	—	7,747	—	10,386	—	▲24.7	34.1
営業利益	18,500	14.8	23,691	19.0	15,000	12.5	20,000	16.3	▲15.6	33.3
経常利益	15,508	12.4	20,283	16.2	12,108	10.1	17,122	13.9	▲15.6	41.4

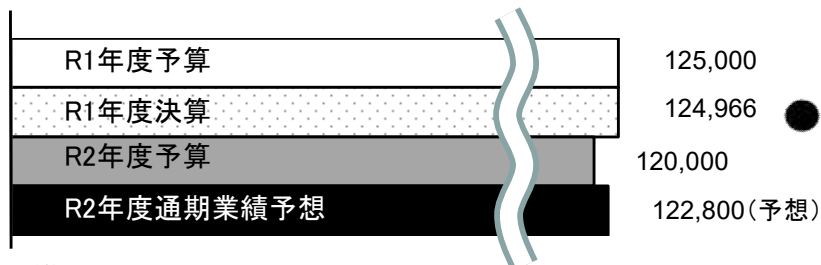
当期純利益 (法人税等調整額除く)	8,700	7.0	11,377	9.1	12,800	10.7	17,814	14.5	56.6	39.2
----------------------	-------	-----	--------	-----	--------	------	--------	------	------	------

5. 売上高・利益の推移

・令和2年度も、前期に引き続き、予算時に比べ売上高、営業利益、経常利益、当期純利益とも上回る予定です。

■売上高

(単位:千円)



R1決算・R2予算と通期業績予想の比較・主な要因

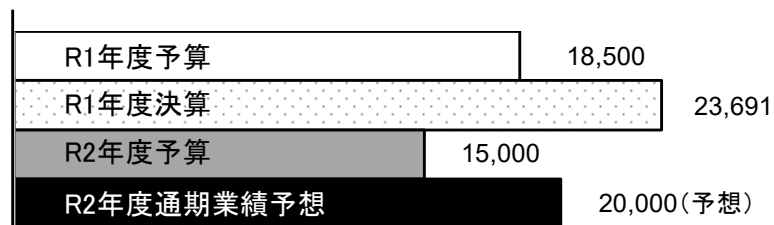
決算比1.7%減

・新型コロナウイルスにより文化・交流センター利用料金収入が減少したことによる

予算比2.3%増

・文化・交流センター利用料金収入の増加（営利団体の長期利用）による

■営業利益



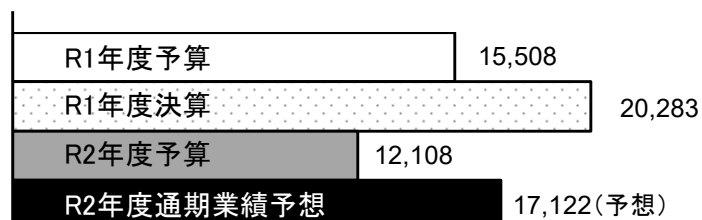
決算比15.6%減

・売上高の減収による

予算比33.3%増

・売上高の増収及び施設の休館等による販売管理費の減少による

■経常利益



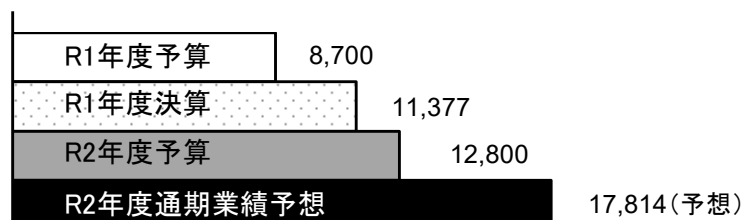
決算比15.6%減

・営業利益の減益による

予算比41.4%増

・営業利益の増益による

■当期純利益



決算比56.6%増

・減資による法人税額減による

予算比39.2%増

・経常利益の増益による

参考１：経営内容を判断するポイント

■貸借対照表や損益計算書で経営判断することも必要ですが、新たな投資や臨時的な支出に大きく左右されます。

★調停条項の着実な履行を判断するポイント

- ①期末にどれだけの資金残高があるのか
- ②純資産額が増加しているのか

.....➡ 資金計画で判断することが適切

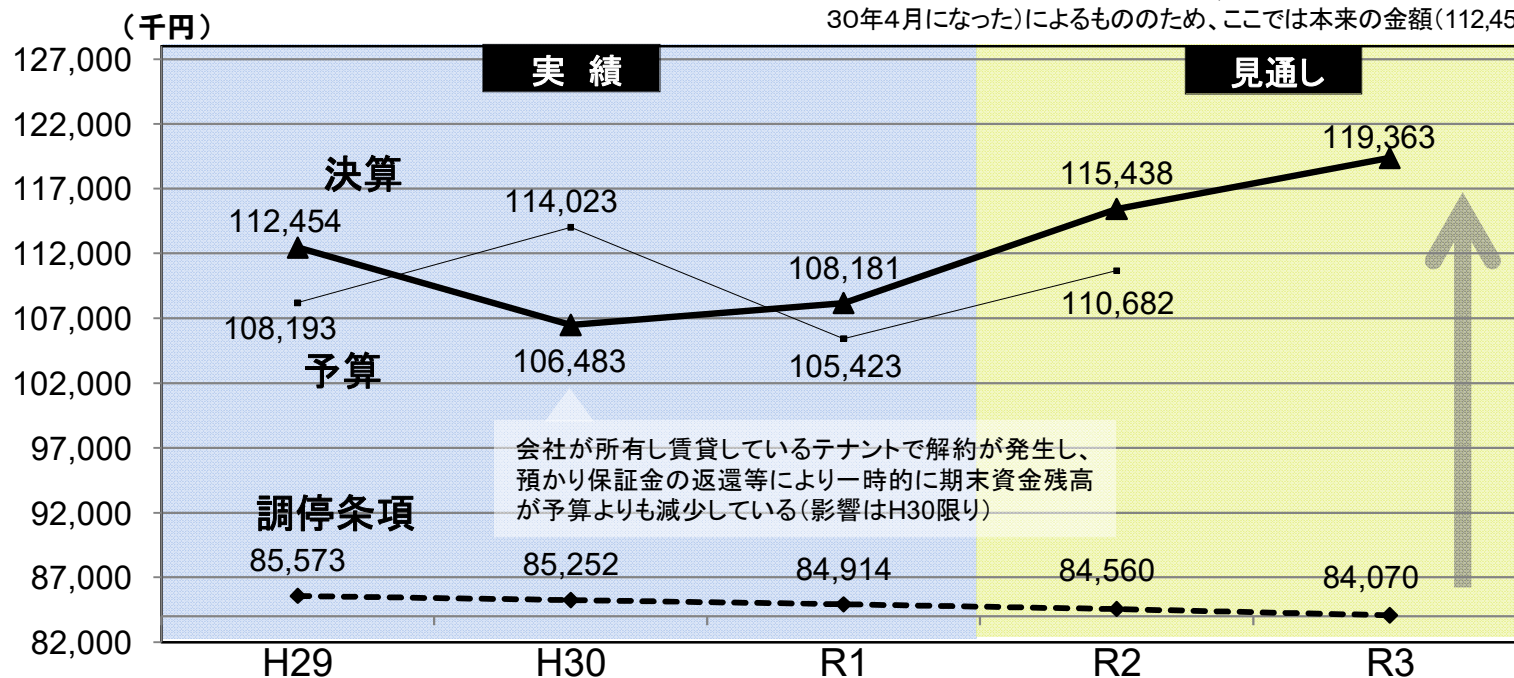
参考２：資金計画の見込み

（１）期末資金残高の推移

（単位：千円）

	各年度の予算・決算実績				令和2年度	令和3年度
	平成29年度	平成30年度	令和元年度			
調停条項	85,573	85,252	84,914	調停条項	84,560	84,070
予算	108,193	114,023	105,423	今後の見通し R2年度通期業績予想による	115,438 (予算110,682)	119,363
決算	122,454	106,483	108,181			

※平成29年度の実際の決算額は「122,454千円」でしたが、これは市借入金支払日の年度ずれ(29年度分の支払日が30年4月になった)によるもののため、ここでは本来の金額(112,454千円)に補正しています。



10期連続で調停条項の推定推移を上回る予定です。

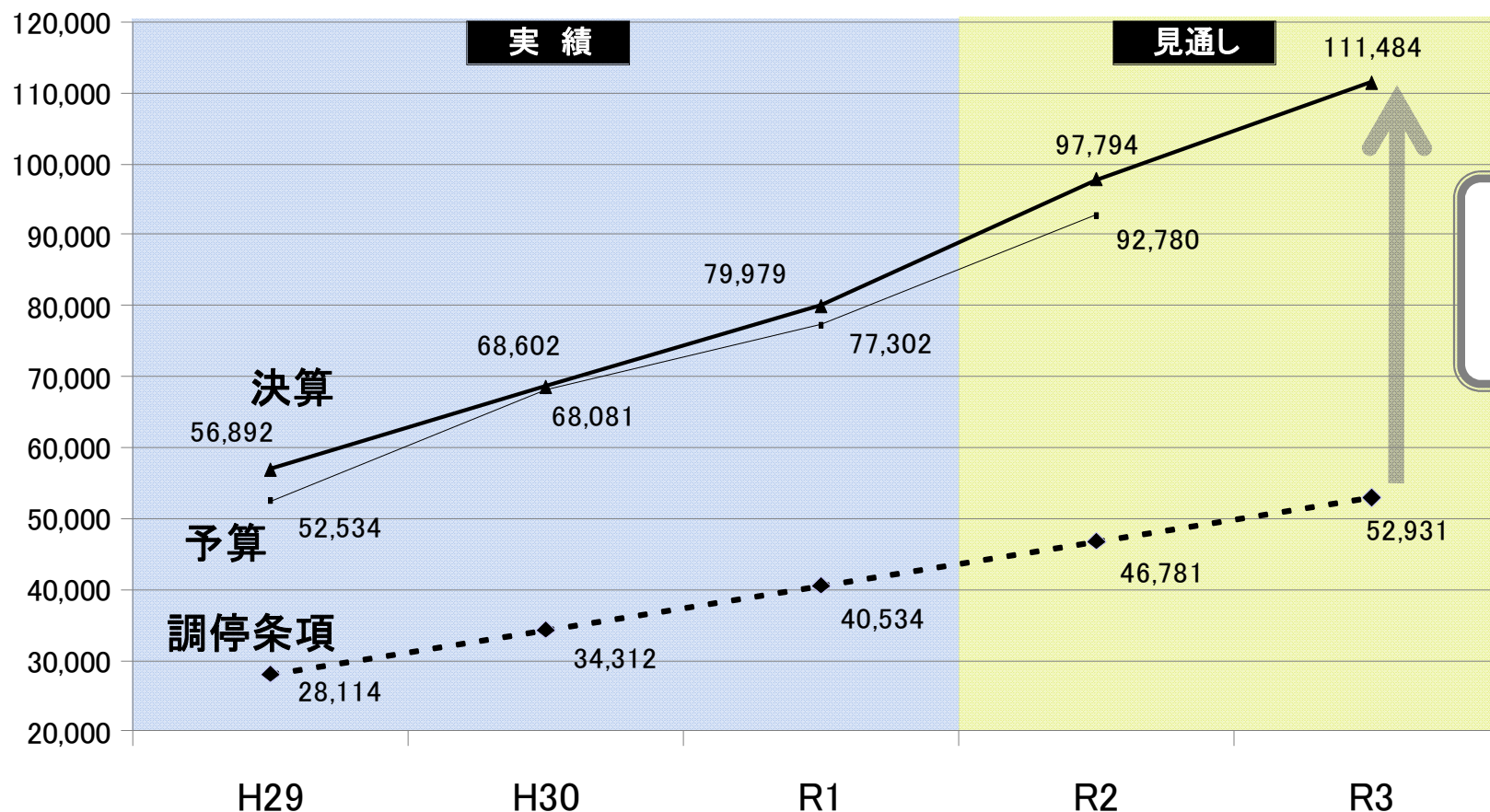
(2) 純資産額の推移

(単位:千円)

	各年度の予算・決算実績				令和2年度	令和3年度
	平成29年度	平成30年度	令和元年度			
調停条項	28,114	34,312	40,534	調停条項	46,781	52,931
予算	52,534	68,081	77,302	今後の見通し R2通期業績予想による	97,794 (予算92,780)	111,484
決算	56,892	68,602	79,979			

(各数値は繰延税金資産を除いています)

(千円)



調停条項の想定
推移を大幅に上
回る予定です。

参考3：事業別売上高の推移

(千円)

